

## 地方型集合住宅としてのシェアハウスの設計

高知工科大学 システム工学群 建築都市デザイン専攻  
1220039 岡野 恋  
指導教員 重山 陽一郎

### 1. 背景

#### (1) 都市型集合住宅の地方への転用

都市型集合住宅とは、高度経済成長期において都市部で起こった「雇用増加→人口流入→住宅需要の増加」の一連の流れによって生まれた集合住宅を指す。

この住宅は、必要最低限の設備を一つの住戸としてユニット化し、効率的に詰め込んだ積層型の住宅である。

このように、都市型集合住宅は特殊な時代背景や土地条件から生まれた住宅であるにも関わらず、特性の異なる地方においても同様に用いられている。

地方では都市部への人口流出により、空き家・空き地問題が深刻化している。そこに都市型集合住宅を転用したことで人口密度の偏りが生まれ、空き家・空き地問題に影響を与えている。

また、溢れる労働者のための住宅として作られた都市型集合住宅は、居住者同士の交流を考慮しておらず、コミュニティの形成を阻害する。

#### (2) 地方におけるコミュニティの重要性

地方におけるコミュニティ衰退の大きな要因の一つは担い手となる若い世代の減少だ。これにより地方ではコミュニティを次世代へ継承できず、意図しない形でコミュニティが弱体化している。地域固有の文化が残る地方では、都市に比べてコミュニティとしての繋がりが強く、その需要も高いと考える。

また、地方では社会の高齢化・過疎化・IT化により高齢者に対する支援の必要性が高まっている。これらの問題を解決する手段として、地域コミュニティの存在は重要であると考えられる。

### 2. 目的

本設計では、地方型集合住宅としてのシェアハウスの提案を目的とする。

空間を共有することで余剰空間を生み出す。それらを豊かな空間に作り変えることで従来の集合住宅に感じる「詰め込み」を解消する。また、生活を共にすることで交流の機会を増やし、コミュニティの再形成を促す。

### 3. 対象敷地

高知県香美市土佐山田町西本町4丁目の一画を対象敷地とする。(図1)

敷地は土佐山田駅と山田西町駅の間に位置し公共交通機関へのアクセスが良い。また、周辺には病院、スーパーやコンビニなど生活に必要な施設が揃っている。

現在敷地には前方に空き家があり、その奥は空き地となっている。(図2、図3)

また、対象敷地では全国と同様に少子高齢化の影響を受けている。その一方で、同市に高知工科大学があることにより他の地方と比較して学生の人口が多く、コミュニティ形成の担い手となる人材が豊富である。



図1. 対象敷地航空写真  
(国土地理院 地理院地図に加筆して掲載)



図2. 図3. 対象敷地現状写真  
(図1. 対象敷地内に赤枠で記載)

### 4. 設計指針

居住対象者は高齢者と学生とする。

シェアハウスは2階建36居室とし、主に1階を高齢者の居住空間、2階を学生の居住空間とする。

目的を達成するために、以下の内容を指針として設計を行う。

## 卒業論文概要

### (1) 都市型集合住宅の詰め込み式の解消

水回りなどの設備を共有することでできた余地を交流の場に作り変え、都市型集合住宅の詰め込みを解消する。効果的な余地の活用として庭を用いる。

### (2) コミュニティ形成の中心となる空間づくり

居住者間の交流だけでなく、居住者と地域住民、地域住民と地域住民の交流を作る場として、住宅内に地域に開いたパブリックスペースを設ける。

### (3) 高齢者に配慮した住環境

長寿社会対応住宅設計指針に基づいて、高齢者が暮らしやすいバリアフリー設計の住宅を計画する。

## 5. 設計内容

### 5-1. 余地としての庭空間

庭空間は①前庭、②中庭、③奥庭、④裏庭、⑤個人庭の5つに分類し配置した。(図6)

①はパブリックスペースとして地域住民に開かれた庭。②から④はシェアハウスの居住者全員が利用できる庭。⑤は居住者が占有する庭である。なお①前庭については、パブリックスペースとの関わりから、設計内容 5-3 に記載する

②中庭は三方を住居に囲まれた場所に位置し、閉鎖的な印象を与えるが、パブリックスペースの気配や音などで賑わいを感じることができる空間とした。(図4)



図4. ②中庭の様子

③奥庭はガラス張りの開口部によりサブリビング、庭ともに開放的な空間となる。広く長い奥庭は運動不足になりがちな高齢者が体を動かす場所にもなる。



図5. ③奥庭の様子

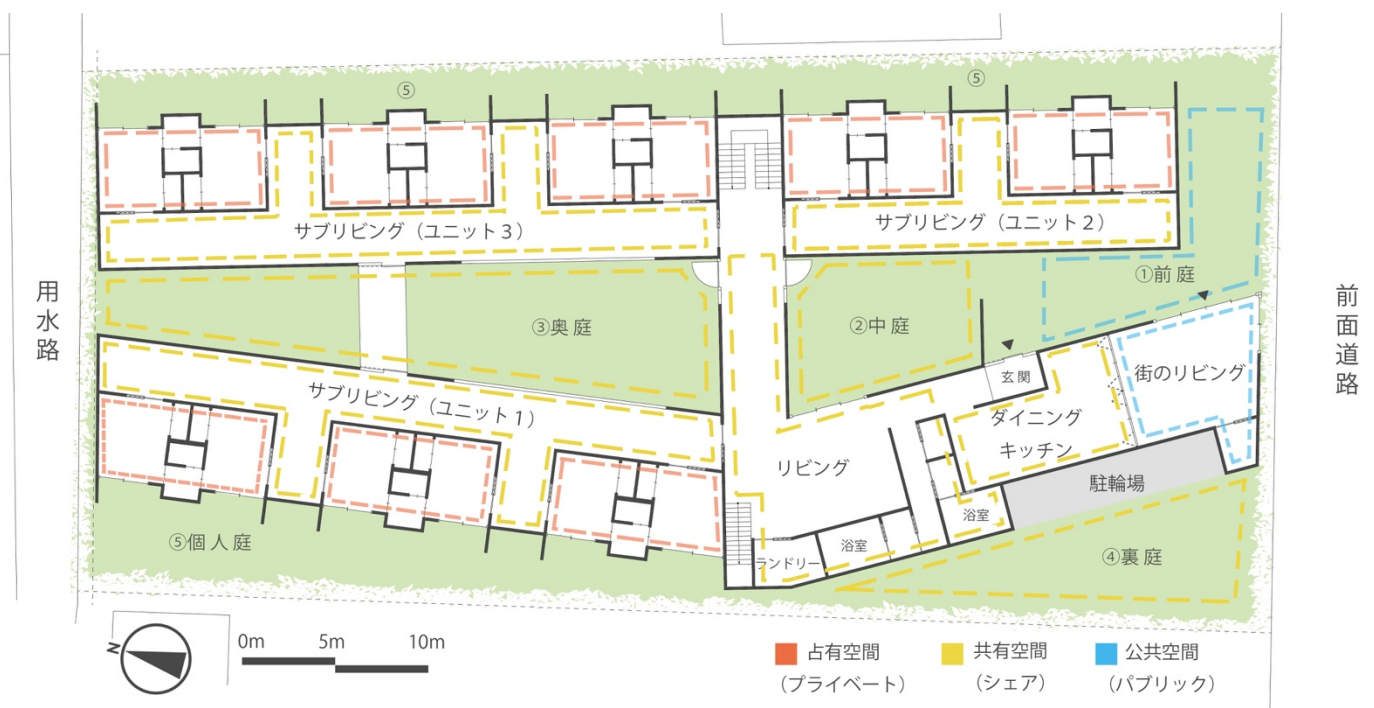


図6. 1階平面図



## 卒業論文概要

④裏庭は駐輪場前の空間を利用した庭である。機能だけにならないよう植栽を豊かに配置し、居住者が日常的に自然を感じることができる空間とした。



図 7. ④裏庭の様子

⑤個人庭は占有空間として植物を育てるなど、生活を豊かにする。2階は庭の代わりにベランダを設けた。



図 8. ⑤個人庭の様子

### 5-2. ゾーン分けと動線

シェアハウス内は居住者以外の出入りが予想されるため各室の配置やその動線に留意した。(図 6)

誰でも利用できる空間をパブリック、居住者のみ利用できる空間をシェア、居住者が占有する空間をプライベートと3つの空間にゾーン分けを行った。

配置計画として、入口からパブリック、シェア、プライベートの順に並べ、プライベート性が高い空間ほど奥にあるいは上階になるよう計画した。

動線計画として、プライベートへは必ずシェアを通るよう計画した。これにより防犯性が高まるだけでなく、シェア空間での交流の機会を増やすことができる。

### 5-3. パブリック (公共空間)

道路に面して誰でも利用できる空間として「街のリビング」を設けた。ここでは、地域の習い事やイベントなどを催すことができる。規模の大きなこと以外にも、学生の自習やおしゃべりを楽しむ空間として気軽に利用することができる。(図 9)



図 9. 街のリビング

前庭は街のリビングに開放的な印象を与え、地域住民に対して開かれた空間であることを強調する。また、植栽により街並みに緑を与える。



図 10. 街のリビング外観、①前庭の様子

### 5-4. シェア (共有空間) とプライベート (占有空間)

シェアからプライベートにかけて、空間を共有する人数が段階的に変化するように計画した。

居住者全員が共有する空間としてリビング、キッチン、ダイニングを設定した。食事や娯楽などの交流を促す空間は全員で利用するよう計画した。また、キッチンやダイニングはパブリックでの活動で使用する際の利便性を考慮し、玄関とパブリックの間に配置した。



図 11. リビングの様子

## 卒業論文概要

一部の居住者で共有する空間としてサブリビング（個室前廊下）を設定した。この空間は同じ廊下に面した4から6の個室を一つのユニットとし、その居住者で共有する。廊下幅を3mとすることで廊下としての機能だけでなく、家具などを配置し、自由に使うことができる空間とした。



図 12. サブリビング（ユニット 2）の様子

居住者が占有する空間として個室と庭（2階はベランダ）を設定した。占有の個室に対して2人で共有する水まわり空間を設けた。高齢者用の個室には洗面とトイレを設置し、学生用の個室には洗面、トイレ、シャワー室を設置した。

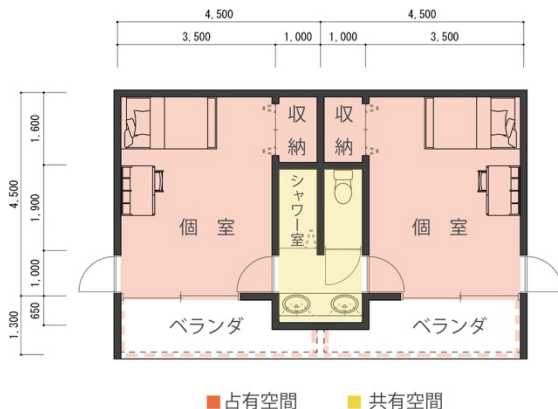


図 13. 2階学生用個室 平面図

空間を共有する人数を段階的に増やすことで居住者同士の交流を促進するとともに、空間を多様化することができる。多様な空間を移動することによって共有生活で起こりうる対人トラブルを緩和することができる。

### 5-5. バリアフリー

シェアハウス内は長寿社会対応住宅設計指針及び建築設計資料集成に基づいてバリアフリー設計とした。同指針で高水準とされる推奨基準を満たすよう、室内の段差、手すりの設置、廊下幅等を計画した。また、高齢者用の個室がある1階では建具を全て引き戸にし、浴室やトイレは車椅子でも利用することができる広さを確保した。

(図 14)



図 14. 広い廊下幅、手すり設置の様子

## 6. まとめ

本設計では、シェアハウスとすることで、設備に消費されていた空間が庭やリビングなどの豊かな空間に変化した。それらの空間によって個人の空間が繋がれることで、従来の住宅にあった詰め込み式の印象を感じさせない住宅となった。

また、集合住宅をバリアフリー化したことで、高齢者と学生が関わる場を作ることができた。この地域に長く暮らしている高齢者と住居を共有することで地域との関わりの第一歩を作り出すことができた。

パブリックスペースはシェアハウス内で生まれた関わりを地域へと広げる窓口のような場となった。この関わりをパブリックに来る地域住民へと拡大することで、コミュニティの再生に貢献できると考える。



図 15. シェアハウス正面の様子

## 7. 参考文献

- ・ 居住空間デザイン講師室,2012; 集まって住もう
- ・ 社団法人日本建築学会,2002  
コンパクト建築設計資料集成バリアフリー
- ・ 国土交通省,1995; 長寿社会対応住宅設計指針  
( <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/torikumi/sisin02.htm> )